

(参 考 资 料)

令和7年度決算における施策効果の主なもの

この「施策効果の主なもの」は、令和7年度の主要施策のうち、明確に成果が現れたもの等を各部ごとにまとめたものです。

※「部名」は、令和8年4月1日現在の組織に基づいています。

1 知事戦略部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
官民共創による政策実現のためのオンラインプラットフォーム	令和4年度に自治体として初めて導入した、官民共創による政策実現のためのオンラインプラットフォーム「PoliPoli Gov」を活用し、意見募集を行った。	・意見募集 6テーマ ・意見件数 1,186件	・意見募集 7テーマ ・意見件数 1,330件
ぐんまベトナム交流祭	ベトナムの旧正月「テト」をテーマとした交流イベントに多くの県民が参加し、国際交流の推進につながった。	来場者数 約8,200人	来場者数 約7,400人
ぐんま電子申請受付システム運用	令和6年5月から、県民・職員の双方にとって使いやすい「第5次ぐんま電子申請受付システム」の運用を開始し、行政手続等のオンライン化数及び利用件数ともに前年度を大幅に上回った。	行政手続等の オンライン化数 1,736件 利用件数 172,448件	行政手続等の オンライン化数 2,775件 利用件数 213,064件
官民共創スペース運用・活用	官民共創スペース「NETSUGEN」における月額会員数は法人、個人いずれも前年度を上回った。	月額法人会員 102 月額個人会員 128	月額法人会員 124 月額個人会員 137
メディア連携推進	在京メディアにおける群馬県の魅力情報の発信を進めるため、メディア連携推進主監を登用し、映像制作会社を中心に知事のトップセールスを実施し関係構築を行い、番組制作等の企画提案を行い、多くの番組での露出拡大に繋がった。	支援番組数: 60番組	支援番組数: 64番組
動画・放送スタジオ運営	YouTubeチャンネル「tsulunos」をはじめとしたSNS動画の総再生回数は、前年度を大きく上回り、1億1,757万回となった。	制作本数: 2,067本 再生回数: 8,030万回	制作本数: 2,123本 再生回数: 1億1,757万回
バーチャルプロダクション地域素材開発	群馬県の魅力的な撮影スポット(歴史的建造物や風景等)のバーチャルプロダクション用背景素材を制作。合計14ロケーション73シーンの素材を制作し、合計11の作品(映画・ドラマ・CM等)で活用された。	-	・制作素材数 14ロケーション 73シーン ・活用実績 11作品
ぐんまちゃんご当地キャラカーニバル	ぐんまちゃんをホスト役として大型キャラクターイベントを開催。来場者は4.8万人とキャラクターファンに好評であり、また群馬県への誘客効果も高く、北海道から和歌山まで約3割は県外からの来場者だった。	来場者数 4.1万人	来場者数 4.8万人
住宅用太陽光発電設備等共同購入	太陽光発電設備(10キロワット以下)や蓄電池等を市場価格比で約31%割引で購入できた。	購入費用約 25%低減 1,363件申込 102件成約	購入費用約 31%低減 992件申込 61件成約
事業用太陽光発電設備等共同購入	太陽光発電設備(10キロワット以上)を市場価格比で約18%割引で購入できた。	購入費用約 20%低減 21件申込 1件成約	購入費用約 18%低減 11件申込 0件成約 (R8.3.31現在)
群馬版MaaS「GunMaaS」(グンマース)の普及拡大	群馬版MaaS「GunMaaS」(グンマース)の利便性向上や上毛電気鉄道への交通系IC導入等の県域への普及拡大に取り組んだ。	登録者数 27,240人 (R7.3末時点)	登録者数 44,380人 (R8.3末時点)

2 総務部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
障害者雇用推進	会計年度任用職員(障害者枠)及びチャレンジウィズぐんまによる非常勤職員の採用を実施した。令和7年6月1日時点において県庁及び地域機関等で62人を雇用し、法定雇用率 2.8%の達成を維持した。 また、障害者職業生活相談員を総務事務管理課に3名配置し、障害のある職員や所属の相談・支援体制を整備した。	障害者雇用率 2.84% (R6.6.1 時点)	障害者雇用率 3.06% (R7.6.1 時点)

徴収対策	法令に基づいた適正・公平な賦課徴収を念頭に、納税者に対して親切丁寧な対応と十分な説明を行うことで、納得と理解を得て納税してもらえる環境を整えることに努めた。 また、賦課徴収にかかる数値目標の設定や進捗管理を行い、効果及び効率を検証しながら重点的に対策を行ったほか、市町村との連携強化を図った。	県税 収入確保額 2,883.0億円	県税 収入確保額 3,031.3億円
県庁舎等リノベーション推進	職員の多様な働き方の実現やコミュニケーションの活性化等を図り、質の高い行政サービスを持続的に提供するため、知事部局のフロアで執務室のフリーアドレス化を実施した。	フリーアドレス化 完了率35% (14/40フロア)	フリーアドレス化 完了率50% (20/40フロア)

3 地域創生部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
ぐんま暮らしブランド化推進	東京都千代田区に開設している「ぐんま暮らし支援センター」で専任相談員が移住・就職の相談に応じるとともに、市町村等と連携した移住相談会や移住セミナー（オンライン含む）を開催した。その結果、相談件数は過去最高を記録するとともに、公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構が発表する「移住希望地ランキング」で2年連続1位を獲得し、群馬県への関心や注目度の向上につながった。 また、移住希望者と地域をつなげる移住コーディネーターのほか、移住の現場できめ細かな支援を行う人材を育成するため、「地域の顔育成研修」を実施するなど、移住者の受入体制整備に取り組んだ。	相談件数 7,684件	相談件数 10,013件
群馬交響楽団80周年記念事業	令和7年度は群馬交響楽団創立80周年であり、周年記念として特別演奏会の開催や、特別演奏会への高校生の無料招待、定期演奏会の群馬テレビでの生放送、県公式YouTubeチャンネルでの配信等を行った。 80周年記念事業を通じて、多くの県民に広くクラシック音楽を鑑賞する機会を提供するとともに、群馬交響楽団のファン層のすそ野拡大を図った。	・演奏会入場者数（アンサンブル含む） 153,004人 (うち定期演奏会入場者数 14,796人)	・演奏会入場者数（アンサンブル含む） 144,921人 (うち定期演奏会入場者数 14,797人)
上毛かるたプロジェクト	「上毛かるた」を通じて郷土群馬への「誇り」と「愛」を醸成するため、県大会優勝者に対する「100万円分の夢を叶えますプロジェクト」として上毛かるたの認知・関心の向上につながる取組を実施した。また、親子大会の開催拡大など、日常で触れる機会を増やす取組を実施した。	・利用許諾件数 143件 ・親子大会参加者数 96名	・利用許諾件数 208件 ・親子大会参加者数 527名
美術展示	館林美術館では、企画展「はしもとみお木彫展〜いきものたちとの旅〜」を開催し、人気彫刻家はしもとみおの新作・初公開の作品や、触って鑑賞できる彫刻などを展示した。この企画展は、SNSでの情報拡散等を通して話題を呼び、歴代最高の観覧者数(70,196人)を記録した。	観覧者数 51,494人	観覧者数 101,790人
競技力向上対策(競技団体等支援)	スポーツ協会・競技団体・高体連・中体連へ補助金を交付している。競技団体では、選手・組織強化の総括責任者“ダイレクター”を設置し、団体のロードマップや事業計画を策定している。新補助メニューであるスポーツテック活用や医学データの利用にも後押しし、より効率的・効果的な選手・指導者強化策に取り組めるよう支援を行っている。	交付実績団体 ・スポーツ協会 ・41競技団体 ・高体連 ・中体連	交付実績団体 ・スポーツ協会 ・41競技団体 ・高体連 ・中体連
競技力向上対策(ジュニア選手の発掘と育成)	・ぐんまプレキッズ事業(5年目)を県内4会場で実施した。前橋52人・藤岡80人・太田80人・沼田33人の計245(応募者266)人のほか、4年生の継続66人が参加し、年間各18回程度の実技練習を実施した。栄養指導(各1回)、競技種目体験(25種目・27日間・延べ220名が参加)も実施した。 ・小学4～6年生を対象としたジュニア選手発掘育成プログラム(ぐんまスーパーキッズプロジェクト事業)を19競技で継続実施している。 ・令和7年度からは、中学生を対象としたぐんまスタージュニアプロジェクト事業を15競技で開始した。	・小学3年生180人参加 ・小学校4年生(継続者)62人参加 ・16競技84人参加(4～6年生)	・小学3年生245人参加 ・小学4年生(継続者)66人参加 ・19競技274人参加(小学4～6年生) ・15競技207人参加(中学1～3年生)

4 生活こども部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
「ぐんまこどもモニター」を活用した意見聴取	県のこども施策について、当事者となるこども・若者など関係者の意見を反映させるため、モニター事業を実施し、こどもの声を政策の検討に活用した。	モニター 登録数 298人	モニター 登録数 298人

インターネット上の誹謗中傷相談窓口の運営	社会問題化しているインターネット上の誹謗中傷に対応するため、相談窓口を設置し、相談員が具体的な対処方法等の助言を行うほか、必要に応じて法律相談を実施した。	相談件数 129件 相談者数 58人	相談件数 136件 相談者数 61人
ぐんまパートナーシップ宣誓制度の運用	多様な県民が支え合い活躍する共生社会の実現を目的として、性的マイノリティ当事者の方が、お互いを人生のパートナーとすることを宣誓された事実を県として公に証明する制度である「ぐんまパートナーシップ宣誓制度」を運用した。	宣誓件数 18件	宣誓件数 14件
性犯罪・性暴力被害者への支援	「群馬県性暴力被害者サポートセンター」(Saveぐんま)を運営し、性犯罪・性暴力の被害者に対する相談・付添い等の直接支援や専門相談(心理カウンセリング、法律相談)、産婦人科医療の支援等をワンストップで行い、被害者の心身の負担軽減と早期の健康回復並びに被害の潜在化防止に取り組んだ。	相談件数 1,680件	相談件数 1,878件
不安を抱える女性へのつながりサポート相談支援「ぐんま・ほほえみネット」	NPO法人等に委託し、電話相談のほか、SNSを活用した相談やアウトリーチ、同行支援などそれぞれの女性に対応したサポートを実施した。	相談件数 1,216件	相談件数 1,241件
ぐんま保育士就職支援センターの運営	「ぐんま保育士就職支援センター」を運営し、保育専任コーディネーターによる求人・求職の斡旋、就職相談会等を行い、保育士、保育教諭のマッチングを成立させた。	マッチング成立件数 54件	マッチング成立件数 51件
ケアリーバー支援	児童養護施設や里親など社会的養護の経験者(ケアリーバー)や虐待経験がありながらこれまで公的支援につながらなかった者等が自立して生活できるよう、一般社団法人への委託によりアフターケア拠点を設置し、ケアリーバーからの各種相談に応じ支援を行った。	延べ相談件数 10,471件	延べ相談件数 10,508件
市民活動支援	①NPO法人・企業・県民・行政の協働を推進するため、全県的な課題解決に向けた協働セミナーを開催した。 ②市民活動相談窓口の充実のため、県NPO・ボランティアサロンぐんまの機能を強化するとともに市町村窓口の機能強化を支援した。	①テーマ型 1回開催 延64名参加 ②相談件数 1,427件/年	①セミナー 1回開催 24名参加 ②相談件数 1,346件/年
「消費者被害防止のための見守り力アップ講座」の開催	地域における見守り力の向上を図るとともに、消費者安全確保地域協議会の設置促進を目的として、「消費者被害防止のための見守り力アップ講座」を太田市、玉村町及びみなかみ町で開催した。	講座開催5回 延56名参加	講座開催5回 延62名参加

5 健康福祉部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
医師確保対策	医学部医学科の群馬県地域枠学生や県外医学生等に対して修学資金を貸与したほか、特に医師が不足する診療科の研修医に修学研修資金を貸与するなど、本県の地域医療を支える医師の育成・確保を進めた。 また、病院PR動画の作成・公開やオンラインによる病院説明会の開催など臨床研修病院への支援や、県外医学生に対する病院見学等助成などを実施した。こうした取組により、令和8年4月1日から県内で臨床研修を開始する研修医の人数は、6年連続で110人以上となった。	令和7年4月1日 付け採用数 111人	令和8年4月1日 付け採用数 115人
ぐんま健康ポイント制度(G-WALK+)普及促進	県民の健康寿命の延伸を図るため、群馬県公式アプリ「G-WALK+」の活用促進を図った。本アプリのインストール数はR8年3月末で約9万件であった。また、R6年度新規登録者のうち20%(約4千人)で、平均歩数が1,800歩程度増加した。	インストール数 7万7千件(累計)	インストール数 9万件(累計)
食環境づくり(へらしおアクション)	県民の食塩摂取量の減少を目的として、県と企業が連携して減塩に向けた商品やサービスの提供、広報等の啓発を実施した。参画事業者数は、9社から14社へと約1.6倍に拡大し、取組が促進した。	参画事業者数 9事業者	参画事業者数 14事業者 (+5事業者)
福祉医療費(子ども)補助	安心して子どもを産み育てられる環境を整備し、子育て世帯を支援するため、市町村と協力して子ども医療費の無料化を継続実施するとともに、令和5年10月からは高校生世代まで拡大した(対象者数:23.8万人)。	補助対象人員 245,268人 受診件数 3,947,681件 補助金額 4,592,400千円	補助対象人員 238,249人 受診件数 3,806,884件 補助金額 4,514,373千円
介護ロボット等導入支援	介護従事者の負担軽減と業務の効率化を図るため、介護施設等293か所における介護テクノロジーの導入を支援した。	介護ロボット 31台 通信環境整備 16事業所 ICT機器 50事業所	ICT機器等 256事業所 パッケージ型 導入支援 37事業所

6 環境森林部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
地域における環境SDGs推進	2050年に温室効果ガスの排出量ゼロの実現に向け、県公認環境SDGsファシリテーターによる活動を支援した。ファシリテーターの活動機会創出のため、12市と連携した波及促進キャラバンの企画、教育機関向け研修会の開催と教育機関での波及活動を実施するとともに、普及動画を作成し広く広報することで、環境SDGsの認知度向上を図った。	普及活動件数: 31件 普及活動に参加した県民数: 751人 アプリ使用人数: 1,331人	・普及活動件数: 61件 ・普及活動に参加した県民数: 1,675人 ・アプリ使用人数: 2,022人 ・SDGs波及動画の視聴回数: 約36万回
生物多様性保全推進	ぐんまネイチャーポジティブ推進プラットフォームを創設し、登録メンバーを対象としたワークショップ等のイベントを開催した。生物多様性ぐんま戦略を1年前倒して改定し、「ぐんまネイチャーポジティブ戦略(2026-2030)」を策定した。	-	プラットフォーム参加メンバー数: 77者 イベント開催数: 3回 イベント参加者数(合計): 109人
県立赤城公園施設整備	県立赤城公園における利用者の利便性向上を図るため、老朽化が著しく全面通行止めとしていた「啄木鳥橋」の上部工及び高欄工を実施し、架替工事を完了させた。	-	啄木鳥橋架替工事完了: 橋長72m、幅員2m
尾瀬サスティナブルプラン	尾瀬及び芳ヶ平湿地群の魅力を生かし、STEAM教育を展開して、群馬らしい学びにより始動人の輩出に寄与した。また、保全と利用が持続的に循環していく仕組みの構築を目指して、民間事業者との連携により、一般利用者参加型の登山道整備ツアーを造成した。	尾瀬ネイチャーラーニング 参加学校・団体数: 43校・団体 参加児童生徒数: 1,873人 登山道整備ツアー 参加者数: 8人	尾瀬ネイチャーラーニング 参加学校・団体数: 35校・団体 参加児童生徒数: 1,173人 登山道整備ツアー 参加者数: 8人
指定管理鳥獣捕獲等(ツキノワグマ対策)	ツキノワグマ対策として、出没対応訓練、緊急銃猟対応研修、県民向けクマ対策講座の開催、人身被害調査等を実施した。また、緩衝帯整備や緊急銃猟に向けた体制整備等を行う市町村を支援した。	・出没対応訓練: 2回 ・人身被害調査: 1件	・出没対応訓練: 2回 ・緊急銃猟対応研修: 1回 ・クマ対策講座: 1回 ・人身被害調査: 7件 ・市町村支援: 8件 8,820千円
特用林産施設体制整備	原発事故による放射性物質の影響により原木等の価格が高騰したことから、きのこ生産者に対し生産資材の導入経費の一部を助成することにより、きのこ生産者の生産コストの抑制や経営の安定、さらに、県内きのこ産業の維持・回復に寄与した。	原木の購入補助本数: 356,399本 オガ粉購入補助: 11,644m ³	原木の購入補助本数: 372,828本 オガ粉購入補助: 11,028m ³
林業構造改善対策	林業事業体等が行う高性能林業機械の導入と、市町村の行う木質バイオマス利用促進施設の整備を支援することにより、森林整備の促進と木材産業の振興に寄与した。	高性能林業機械等の導入: 7台 木質バイオマス利用促進施設の整備: 1件	高性能林業機械等の導入: 4台 木質バイオマス利用促進施設の整備: 1件
ぐんま森林・林業スタートアップ研修	森林の新たな価値創造や森林資源の利活用に関わる「多様な林業」について、その職種や働き方、地域との関わり方への理解が進み、本県の森林・林業・木材産業に関心を持つ層の拡大に寄与した。	短期研修 6名 長期研修 3名 (延べ9名)	セミナー研修 255名(3回) 体験研修 12名 (延べ267名)
ぐんま森林・林業イノベーションプラットフォーム「もりビズぐんま」	県内の森林・林業関係者と異業種・異分野の民間企業等との連携およびマッチング創出の場となる「ぐんま森林・林業イノベーションプラットフォーム(もりビズぐんま)」を立ち上げた。	-	プラットフォーム会員数110名

7 農政部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
有機農業推進	新たな担い手の確保及び生産拡大を目的に、農業者を対象とした研修会を開催した。さらに、東京都内の専門店における販売会や県内でのオーガニックマルシェの開催を通じて販売機会を拡充するとともに、日帰り及び宿泊型の有機農業体験ツアーの実施、有機農業を題材とした副読本の作成、出前講座の実施等により、有機農産物に対する理解の浸透に取り組んだ。	・有機農業専攻新設(6名) ・研修会(6回342名) ・東京都内での販売会(13日間) ・オーガニックマルシェ(10日間) ・有機農業体験ツアー(41名) ・消費実態調査(2,477名回答)	・研修会(6回372名) ・東京都内での販売会(2か月) ・オーガニックマルシェ(7日間) ・有機農業体験ツアー(79名) ・有機農業を題材にした出前講座(2校)
特定家畜伝染病対策	県内養豚場での豚熱発生予防のため、飼養豚に豚熱ワクチンを接種した。また、農場の施設整備や消毒用資材を支援することにより、畜舎へのウイルスの侵入を予防した。	ワクチン接種頭数 1,578,699頭 消毒用資材支援 鶏147農場	ワクチン接種頭数 1,595,649頭 消毒用資材支援 鶏146農場 豚79農場 施設整備補助 13農場
農地利用促進対策	農地中間管理事業等を活用して、新たに2,037haの農地が担い手に集積され、担い手の規模拡大による経営の安定化を図ることができた。また、遊休農地再生利用事業(県単事業)等により遊休農地を解消した。	担い手への農地集積率 44.1%	担い手への農地集積率 44.7%
農業近代化資金等融通対策	農業近代化資金を利用する農業者等に対し利子補給を行い、施設や機械の購入等、経営改善に取り組む農業者等を支援した。令和7年度融資の承認件数(対前年比109.3%)、承認金額(対前年比112.1%)共に増加し、中長期の低利な資金の円滑な融通により、認定農業者等の経営改善に活用された。	農業近代化資金 承認件数 246件 承認金額 2,140,525千円	農業近代化資金 承認件数 269件 承認金額 2,400,364千円
野菜振興	「野菜王国・ぐんま」推進計画に基づき、主要品目である、きゅうり、夏秋なす、ほうれんそう、いちご(やよいひめ)等の生産振興に取り組んだ。夏秋キャベツ、夏秋なす、ほうれんそうは、出荷量日本一を維持したほか、国庫・県単補助事業を活用し、鉄骨ハウスやパイプハウスの整備、環境制御機器、移植機等の導入を支援することで、産地の生産力強化を図った。	出荷量日本一 夏秋キャベツ (55年連続) 夏秋なす (9年連続) ほうれんそう (4年連続) 「野菜王国・ぐんま」総合対策 取組主体数 72 補助金合計 119,357千円	出荷量日本一 夏秋キャベツ (56年連続) 夏秋なす (10年連続) ほうれんそう (5年連続) 「野菜花き生産力強化」 取組主体数 67 補助金合計 104,825千円
こんにゃく複合作物導入	こんにゃく生産者が新たな複合作物に取り組むのに必要な農業機械の導入経費を助成した。複合作物導入面積(加工用ばれいしょ、ねぎ)は前年度と比べ3.4倍に伸びた。	こんにゃく複合作物導入面積 (加工用ばれいしょ、ねぎ) 9.5ha	こんにゃく複合作物導入面積 (加工用ばれいしょ、ねぎ) 32.5ha
有機こんにゃくPR動画作成	インバウンド向け有機こんにゃくPR動画の制作本数、再生回数はいずれも前年を上回った。	制作本数 2本 再生回数 8万回	制作本数 3本 再生回数 30万回
農畜産物ブランド力強化対策	G-アナライズ&PRチームの取組で明らかになった各品目の強みや特長をはじめとした県産農畜産物の魅力について、群馬県公式YouTubeチャンネル「tsulunus」による動画配信やInstagram等の各種SNS等を活用した情報発信を行った。あわせて、首都圏における料理教室、民間飲食店や産直ECサイトとの連携によるPRを実施した。	群馬県産農畜産物を「買いたい」「食いたい」と考えている消費者の割合 38.2%	群馬県産農畜産物を「買いたい」「食いたい」と考えている消費者の割合 42.9%
農畜産物等輸出促進	台湾・イスラエル・香港市場を対象とした現地PRやバイヤー招聘商談会、欧州の実需者向け和牛セミナー、国際見本市への出展支援、輸出に取り組む農業者を育成する塾の開講、輸出経費への補助のほか、輸出促進支援員による生産者への継続した伴走型支援等により、令和7年の輸出金額及び輸出に取り組む産地・事業者数はともに前年を上回った。	輸出金額 1,858百万円 輸出に取り組む産地・事業者数 42	輸出金額 1,974百万円 輸出に取り組む産地・事業者数 46

多面的機能支払	農業者及び農業者と地域住民が行う299組織の共同活動を支援することで、20,420haの農用地を保全し、耕作放棄の防止や国土の保全、水資源のかん養、農村景観の形成など、農業・農村の有する多面的機能の維持を図るとともに、158組織が取り組む、用水路、農道などの長寿命化を図る活動を支援した。	農地・農業用施設の維持・保全活動を支援した組織数 287組織	農地・農業用施設の維持・保全活動を支援した組織数 299組織
農業競争力強化基盤整備	経営体育成型4地区、農地中間管理機構関連1地区、畑地帯担い手育成型5地区など、狭小な農地を大型機械が導入できる農地へと整備したほか、農道・用排水路等の生産基盤整備を行った。その結果、農業用水の安定供給と優良農地が確保され、担い手への農地集積が促進された。	実施地区数 県営17地区 団体営1地区	実施地区数 県営17地区 団体営3地区

8 産業経済部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
ぐんまネクストジェネレーター	意欲ある若者と、さらなる成長を目指す県内企業とのマッチングを行い、両者が協働して課題解決に取り組んだ。若者ならではの視点を企業の課題解決に生かすとともに、参加学生に対して県内企業の魅力を発信した。	マッチング件数 5件	マッチング件数 9件
ぐんま賃上げ促進支援金	県内中小企業等の賃上げに対して支援金を支給し、多くの事業者が賃上げの契機として本事業を活用した。	-	活用事業者数 2,333事業者 (20,329人分)
ぐんま未来イノベーションLAB	群馬から新たな価値やイノベーションを創出するため、異業種連携のプラットフォーム「ぐんま未来イノベーションLAB」を運営した。会員を対象に、世界のビジネスの潮流やデジタル技術の動向、企業の先進事例、変革期の経営などをテーマとした連続セミナーを開催した。あわせて、会員との共催による課題解決型ワークショップや専用ウェブサイトでの情報発信を行い、会員同士のネットワーク形成による自発的な共創プロジェクト創出を支援した。	会員数 652者 セミナー等開催数 13回 セミナー等参加者数 延べ645名	会員数 931者 セミナー等開催数 10回 セミナー等参加者数 延べ595名
未来投資促進	本社機能や試験研究施設の移転、県内企業の投資拡大を促進するため、東京圏、大阪圏での営業、地域未来投資促進法等の優遇措置の活用など、積極的な誘致活動を展開した。その結果、令和7年工場立地動向調査において、全国上位の実績に繋がった。	立地件数 38件(全国第8位)	立地件数 28件(全国第8位)
特別高圧電力価格高騰対策支援金	特別高圧電力の価格高騰の影響を受けている県内事業者の負担を軽減するため、電気代の一部を支援した。	支給件数:34件 支給金額: 634,943千円	支給件数:36件 支給金額: 250,488千円
外資系企業等向けプレゼンテーション	在日フランス商工会議所での知事トップセールスがきっかけとなり、在日フランス商工会議所(東京都中央区)が、群馬県庁32階官民共創スペースNETSUGENに、国内5カ所目の拠点となる群馬デスクを開設した。地方オフィスとしては大阪、名古屋、福岡に次ぐ4番目。	在日フランス商工会議所が群馬デスクを開設	イベント開催数 2回 イベント参加人数 56名
スタートアップ・創業支援	県内企業の課題解決のために、欧州スタートアップとのマッチングを支援し、NDA(秘密保持契約)等のマッチングが11件行われた。	-	マッチング 11件
ぐんまDX技術革新補助金	中小企業のデジタル技術を活用した製品開発やDX推進等を支援するため、計35件の事業者に対し補助金を交付した。過去3年間の開発終了後の補助金交付額に対する新製品の販売額及び設備投資額の割合(経済波及効果)は10.1倍であり、相応の効果があつた。	交付件数 37件 経済波及効果 17.0倍	交付件数 35件 経済波及効果 10.1倍
産業技術専門校運営	県立産業技術専門校3校において、求人開拓やきめ細かな就職支援などにより、就職希望者133人のうち132人が就職した(令和8年3月末時点の実績)。	就職率 100%	就職率 99.2%
IT人材育成×女性就労支援 MAITSURUプロジェクト	育児・介護等により就労が制限されやすい女性に対し、ITスキルの習得から就労までを支援した結果、就労者数が前年を上回った。また、在職者向けのITスキル講座により、受講した女性の処遇向上に繋がった。	就労者数 41名	就労者数 54名 処遇向上者数 35名
リトリート基盤整備	心と身体を癒やす滞在型観光の一大拠点を目指し持続可能な観光地域づくりのためのリトリート環境整備(ハード事業)、長期滞在の促進や高付加価値向上に資する長期滞在客等受入促進(ソフト事業)として支援を行った。	採択件数 リトリート環境整備 2件 長期滞在客等受入促進 3件	採択件数 リトリート環境整備 3件 長期滞在客等受入促進 3件

eスポーツ推進	19歳以下のチームによる全国規模のeスポーツ大会「U19eスポーツ選手権」に加えて、国内唯一のeスポーツ実況者の大会「全日本eスポーツ実況王決定戦」を開催した。U19においてはオンライン配信の再生回数が、実況王においては来場者数が、前年を大きく上回った。	「U19eスポーツ選手権」 来場者数 552者 配信再生数 14,902回 「全日本eスポーツ実況王決定戦」 来場者数 399者 配信再生数 37,322回	「U19eスポーツ選手権」 来場者数 325者 配信再生数 107,847回 「全日本eスポーツ実況王決定戦」 来場者数 650者 配信再生数 23,796回
デジタルクリエイティブ人材育成	群馬県独自の県内小中高校生向けデジタルクリエイティブ人材育成施設「tsukurun」において、新たな価値を生み出す人材を育成した。	利用者数 4,915人 イベント実施数 152回	利用者数 5,780人 イベント実施数 152回
TUMO Gunma運営	アルメニア共和国発祥の国際的に評価の高い人材育成プログラムをアジアで初めて導入した「TUMO Gunma」の開設・運営を実施した。	-	利用者数 15,023人
ロケ誘致・支援	ロケ支援スペシャルチームによるロケ支援強化や映像制作インセンティブ制度の利用促進等に取り組んだ結果、支援件数及び撮影日数が過去最高を記録した。	相談件数 506件 支援件数 64件 撮影日数 190日	相談件数 502件 支援件数 72件 撮影日数 286日

9 県土整備部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
道路防災	災害時に孤立集落の発生リスクがある路線の防災対策を推進するため、落石対策などを県道沢入桐生線ほか9路線で実施した。	実施路線数 4路線	実施路線数 10路線
舗装補修	県管理の国道及び県道の舗装の健全率を96％以上に維持するため、国道354号などの大型交通量が多く、損傷の多い路線について集中的に補修を実施した。	実施延長 38km	実施延長 42.5km
歩道整備	誰もが安全に移動できる環境づくりのため、歩道整備事業を県道前橋伊香保線大久保工区ほか26か所で実施し、そのうち2か所が完了となり、安全な歩行空間を確保することができた。	事業実施か所 34か所	事業実施か所 27か所
交差点改良	幹線道路の交差点における右折車両の渋滞解消と通行の安全を確保するため、右折車線や歩行者待機場所などを整備する交差点改良事業を県道藤岡本庄線中栗須藤岡境交差点(藤岡市)ほか4か所で実施した。	事業実施か所 7か所	事業実施か所 5か所
道路拡幅	県道富士山横塚線(横塚工区)ほか2か所、約1.2kmについて、現道拡幅事業が完成したことにより、道路利用者の安全性や走行性が向上した。	拡幅か所数 3か所 拡幅延長 4.6km	拡幅か所数 3か所 拡幅延長 約1.2km
河川改修	近年浸水被害のあった河川や人口・資産が集中する地域の河川を中心に河積拡大や築堤など、約0.7kmの整備が完了するなど、事業の進捗を図った。	河川改修事業 実施延長 約2.0km	河川改修事業 実施延長 約0.7km
土石流対策	住民の生命と財産を守るため、平出沢(みなかみ町)ほか11か所の土石流対策を完成させ、人家134戸、要配慮者利用施設3施設及び避難所4か所の土砂災害リスクの軽減を図った。	完成か所 9か所	完成か所 12か所
急傾斜地崩壊対策	住民の生命と財産を守るため、北中裏(B)地区(桐生市)ほか6か所の急傾斜地崩壊対策を完成させ、人家71戸、要配慮者利用施設1施設、避難所5か所の土砂災害リスクの軽減を図った。	完成か所 4か所	完成か所 7か所
地すべり対策	住民の生命と財産を守るため、駒留地区(藤岡市)ほか4か所の地すべり対策を完成させ、人家119戸、要配慮者利用施設1施設の土砂災害リスクの軽減を図った。	完成か所 0か所	完成か所 5か所
土砂災害警戒避難支援	市町村が指導する「要配慮者利用施設の避難訓練」の支援として、防災コーディネーターを派遣し、みどり市の要配慮者利用施設に対して、避難訓練を実施した。	支援実績 1町	支援実績 1市

汚水処理人口普及率向上のための支援	公共下水道では、「下水道接続宅内配管費補助」として、市町村が接続者を行う助成に対する補助を実施した。 合併処理浄化槽では、市町村が合併処理浄化槽への転換者に対して行う「浄化槽本体費及び宅内配管費」の助成に補助を実施した。 その結果、令和7年度末の汚水処理人口普及率が0.6ポイント上昇し、86.4%となった。	汚水処理人口普及率85.8%	汚水処理人口普及率86.4%
県営住宅建設・改善	住戸毎に水廻り等を改修する改善事業を実施した。	個別住戸改善 2団地18戸	個別住戸改善 1団地4戸

10 警察本部

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
県民生活の安全を確保するための取組の推進	県民生活の安全・安心を確保するため、各対策を強力に推進した。 その結果、令和7年中の刑法犯認知件数は、15,283件(前年比+690件、+4.7%)と4年連続で増加したものの、特殊詐欺の認知件数は、151件(前年比-4件、-2.6%)と3年連続で減少するなど、一定の改善が見られた。	〈認知件数〉 ・刑法犯 14,593件 ・特殊詐欺 155件	〈認知件数〉 ・刑法犯 15,283件 ・特殊詐欺 151件
重要犯罪・重要窃盗犯の徹底検挙	令和7年中の刑法犯検挙率は48.4%で、前年に比べて3.1ポイント上昇し、全国平均(38.9%)を上回った。 重要犯罪検挙率は91.4%で、全国平均(86.8%)を上回った。 重要窃盗犯検挙率は、41.8%と全国平均(49.9%)を下回ったものの、検挙人員は95人で前年に比べ15人増加した。	〈検挙率〉 ・刑法犯 45.3% ・重要犯罪 98.2% ・重要窃盗犯 48.4%	〈検挙率〉 ・刑法犯 48.4% ・重要犯罪 91.4% ・重要窃盗犯 41.8%
交通事故防止対策の推進	各季の交通安全運動を始め、段階的かつ体系的な交通安全教育、交通事故分析に基づく効果的な交通指導取締り及び交通安全施設の整備を推進した結果、交通人身事故発生件数は僅かに増加したが死者数については減少した。	・交通人身事故発生件数 9,059件 ・死者数 49人	・交通人身事故発生件数 9,095件 ・死者数 48人

11 教育委員会

実 施 事 業	施 策 効 果 の 内 容	R6実績	R7実績
ぐんま教育ビジョン実現 PJ	「群馬県教育ビジョン」の実現・達成に向け、学校事情や学校運営方針に応じて、県独自に実施している少人数学級編制に加え、複数担任制などについて選択可能とした。 その結果、教師が児童生徒一人一人の変化に気付き、個別の声かけを行うことで、自己有用感や自己肯定感の涵養につながるなど、各学校において、各児童生徒の課題に合わせた指導・支援がしやすくなった。	小1:62校・62人 小2:66校・66人 小6:52校・52人 中1:45校・71人 中2:52校・81人 中3:61校・80人	小1:56校・56人 小2:60校・60人 中1:44校・74人 中2:49校・72人 中3:49校・61人
スクールカウンセラーの配置	・小中学校等 スクールカウンセラーを市町村立小・中学校、中等教育学校、義務教育学校の全校に配置し、教育相談体制の充実を図るとともに、スクールカウンセラースーパーバイザーを各教育事務所に配置し、緊急事案や重大事態への対応を行った。 スクールカウンセラーが対応した相談件数は45,405件となっている。前年度より減少したものの、スクールカウンセラーが関わった不登校児童生徒の6割以上に生活面や学習面などへの好ましい変化が見られた。また、教職員へのコンサルテーションも日常的に実施しており、配置された約9割の学校で、教職員の相談技術の向上及び校内協働体制の構築が図られている。 ・高等学校 スクールカウンセラーを県立高等学校及び中等教育学校の全校・全課程に配置し、教育相談体制の一層の充実を図るとともに、不登校生徒等への支援を行った。その結果、スクールカウンセラーが関わった生徒の相談の約7割に改善が見られた。また、スクールカウンセラーの配置により、9割以上の学校で教職員の相談技術の向上及び生徒理解の深化が見られた。	小中学校等 相談件数 49,555件 高校相談件数 7,526件 ※教職員等への助言を含む	小中学校等 相談件数 45,405件 高校相談件数 8,343件 ※教職員等への助言を含む

巡回型日本語指導スーパーバイザー(JSV)の配置	外国人児童生徒の散在地域に、巡回型日本語指導スーパーバイザー(JSV)を5名、配置。 JSVについては、日本語指導を要する児童生徒等への日本語指導や、在籍学級担任等への助言等を行うことで、日本語指導を担当する教員の指導力を高められた。特に、日本語指導等、外国人児童生徒等教育に係るノウハウが十分でない散在地域において、地域の実情に応じた日本語指導体制の整備を進めることができた。また、ぐんま教育フェスタにおいて取組の成果や実践事例を広く発信するとともに、参加した各地域の担当者との協議をとおして、課題の共有や今後の方向性について理解を深め、地域間の連携強化につながった。	【JSV】 訪問校数 36校	【JSV】 訪問校数 41校
---------------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------